

さいたま 埋文 レポート

2024
年報 44
[令和5年度版]



公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団は、埼玉県の出資により昭和55年に設立された法人です。

当時、本部事務所は浦和市（現さいたま市）にありましたが、昭和62年に大里地域に整理事務所を開設し、その後、平成2年には本部事務所全体が現在地に移転し、以来今年で37年が経過します。

昭和62年当時の行政区域であった大里郡大里村は合併し、現在、熊谷市となっています。熊谷市はたいへん暑い地域だと思われていますが、大里地域は比企丘陵と荒川に挟まれた、緑豊かな場所です。

当事業団は、ここ大里地域の皆様に37年の間支えられながら、埼玉県の遺跡の発掘調査に尽力して参りました。地域の皆様の長年にわたる御支援に心から感謝を申し上げます。事業団では、県内各地域で遺跡の発掘調査を行っていますが、ここ大里地域の本部事務所では、日々職員が、発掘した遺物の整理や記録、保存作業等にあたっています。遺跡から発見された土器や石器などは、施設内の収蔵庫で一部を御覧いただくことができますので、近くにお越しの際などに足をお運びいただければと思います。

今年も昨年同様、世界的に暑い夏となっています。国連事務総長が、昨年7月に発言したとおり、まさに地球沸騰の時代が到来したと言えます。この埼玉の地においても昨年以上の暑さとなりました。

また、今年には自然災害が多く起こっています。このような、気候の急激な変化や自然災害は、現在まで続く人類の歴史でもたびたび起きています。数々の困難を乗り越えて歴史をつなげてきた先祖の姿を、発掘調査を通して目の当たりにすることができ、われわれに勇気を与えてくれます。

発掘調査の成果は、埋蔵文化財として保存され、活用されます。私たち公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団の目的である、過去からの「物」を保存し、あるいは記録して、後世に残していく仕事は、未来に向かって進もうとする人の役に立つことだこの思いを新たに、これからも一層努力して参ります。

さて、令和五年度は、14遺跡で発掘調査を行いました。

砂原遺跡（行田市）や、船川遺跡（行田市）では、古墳時代から中世にいたる遺構

や遺物が出土し、河川のそばで営まれていた当時のくらしを知ることができました。また、金久保内出遺跡（上里町）では、古墳時代の住居跡が数多く見つかると、当時の人々の営みを詳しく知ることができました。同じ上里町の清水南遺跡では、中世の大型掘立柱建物跡が見つかりました。柱の穴には、柱を支える石が設置され、建物建築の技術を知ることができました。

整理事業については、発掘調査を終えた遺跡について、その成果を報告書にまとめる作業を行いました。令和五年度は、長竹遺跡（加須市）、栗橋宿関連遺跡（久喜市）のすべての報告書を刊行し、事業が終了しました。縄文時代の環状盛土遺構が発見された長竹遺跡や、江戸時代の栗橋宿の報告は、当時を復元する貴重な成果をみなさまにお届けすることができました。

埋蔵文化財に関する普及事業では、小学生を主な対象とした学習支援を小中学校40校で実施しました。「古代から教室へのメッセージ」と称するこの事業は、当事業団職員が学校の授業等に出向いて、実物の土器や石器に子どもたちが直接触れる機会を提供するものであり、各学校から好評をいただいております。

このほか、発掘調査の成果をいち早く公開する「遺跡見学会」、大型商業施設などにおいて展示を行う「ほるたま展」、発掘成果を遺跡の地元に表示する「里帰り展」、数多くのおみなさまが参加できるよう初めて行ったネット配信の「ほるたまセミナー」などを実施し、多くの方々に御来場、御参加いただきました。いずれも新型コロナウイルス収束後の社会を意識しながら、また予防にも留意しながらの開催となり、御協力いただきました皆様には、心より御礼申し上げます。

さらには、博物館や市町村で実施される各種講座への職員派遣や大学生対象のオープンカンパニーなど、文化財保護に係る普及啓発、人材育成支援にも取り組んでいるところです。

本書は、当事業団が令和五年度に実施しました事業の概要をわかりやすくまとめたものです。多くの皆様に、研究や学びの参考として御活用いただけましたら幸いです。

令和六年 十月

公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

理事長 加藤 健次



目次

I 令和五年度に調査をした遺跡

砂原遺跡（第2次） 行田市 1

船川遺跡（第2次） 行田市 3

平右衛門遺跡（第5次） 鴻巣市 4

宮前遺跡（第3次） 鴻巣市 6

金久保内出遺跡（第3次） 上里町 8

清水南遺跡（第2次） 上里町 11

三竹遺跡（第4次） 川島町 13

糠田古墳群（第2次） 鴻巣市 14

八木上遺跡（第7次） 狭山市 15

権現遺跡（第2次） 吉見町 16

二ノ耕地遺跡（第3次） 吉見町 17

小久住遺跡（第1次） 飯能市 18

塚原南遺跡（第1次） 東松山市 19

下長塚遺跡（第1次） 上里町 20

II 令和五年度に刊行された報告書

発掘資料の保存と活用 21

1 保存・活用事業（埼玉県収蔵埋蔵文化財保存活用業務委託事業） 22

2 その他の事業 24

IV 事業団の概要

1 設立の趣旨と目的 27

2 略沿革 27

3 組織の概要 27

砂原遺跡（第2次） 行田市

「立地と環境」

砂原遺跡は、秩父鉄道武州荒木駅から北方に約3kmの行田市須加地内に所在し、利根川堤防の南側に接して位置している。

江戸幕府による東遷事業以前の利根川は、会の川を流下していたとされる。これを示すように、会の川の南西岸には志多見砂丘をはじめ、いくつもの河畔砂丘が点在している。

会の川より上流側の行田市下中条や須加においても、砂丘状に砂が厚く堆積した地点が点在している。遺跡名の「砂原」をはじめ「砂畑」あるいは須加城跡など、周辺の地名・旧跡がその存在を示している。近隣住民によれば、かつて砂原遺跡の場所には、巨大な砂の丘が存在し、松林と石仏を安置した祠が頂上にあつたとされる。

このような会の川右岸に分布する砂丘状の堆積は、風成堆積による「砂丘」とは異なり、水成堆積による「自然堤防」の可能性が高い。会の川左岸にある志多見砂丘等の河畔砂丘とは形成の要因が異なる点は、利根川中流域の土地形成を捉える上で重要な資料となる。

遺跡周辺の地形は、加須低地に分類される。加須低地の形成には、関東造盆地運動と呼ばれる沈降運動と利根川によってもたらされる堆積物が大きく関わっている。台地が沈下し、その上を覆う洪水堆積物によって埋没台地が形成さ

れた。

旧石器時代や縄文時代の遺跡の多くは、埋没台地やその支台の上に分布している。旧石器時代では、行田市馬場裏遺跡、内郷遺跡、北大竹遺跡から石器や剥片が少数出土している。縄文時代では草創期の石槍が出土した神明遺跡が行田市内で最も古い。

弥生時代では熊谷市東部に広がる荒川扇状地の扇端において北島遺跡、前中西遺跡、池上遺跡、小敷田遺跡などの遺跡が展開している。また、下流側の現利根川に沿った自然堤防上への羽生市屋敷裏遺跡では、方形周溝墓が検出されている。

古墳時代になると周辺の自然堤防上に集落が営まれ、多くの古墳も築かれた。5世紀後半の特別史跡埼玉古墳群の稲荷山古墳の築造を始まりとして、利根川の旧流路周辺には大稲荷古墳群、6世紀代の酒巻古墳群などが造営された。利根川の旧流路（星川・元荒川）沿岸に営まれた5世紀から7世紀の集落遺跡としては、行田市小針遺跡、北大竹遺跡、築道下遺跡などで大規模な集落が展開していたことが明らかとなっている。これらの遺跡は9世紀代や10世紀代まで継続する。一方、利根川の現流路沿いでは5

世紀から7世紀の遺跡が少なく、羽生市屋敷裏遺跡などに限定されている。羽生市茂手木遺跡は、8世紀代に河畔の周辺に進出した集落である。こうした低地への進出は9世紀から10世紀

にかけて非常に活発となり、羽生市北尾崎北遺跡などでも遺構・遺物が検出されている。

中世の利根川は、現在の会の川を流れていた。須加周辺では、旧行田市立須加小学校から長光寺付近の高台が須加城跡と伝承される。『鎌倉九代後記』には、永享十二年（1440）に「色伊予守が須加土佐入道の城へ押し寄せ放火し



第19号竪穴住居跡（第三面）

たという記載が見られる。

「発見された遺構」

砂原遺跡第2次調査では、1次調査の近世の第一面、奈良・平安時代の第二面調査に続き、飛鳥時代の第三面と古墳時代前期の第四面の調査を行った。遺構は第三面で竪穴住居跡、土壇、溝跡、第四面で竪穴住居跡、土壇墓、土壇、溝跡、性格不明遺構、河川跡が検出された。他に第1次調査の際に深度が深く掘り残した井戸跡2基の調査を行った。なお、遺構番号は、第1次調査から継続して付した。

飛鳥時代（第三面）

地表から約2.2m下の褐色シルト質土の地山から竪穴住居跡10軒、土壇3基、溝跡1条を検出した。地形は、北西が高く南東に向かって緩やかに低くなっている。遺構は西側に多く南東にかけて希薄になっていく。

検出された10軒の竪穴住居跡は、いずれも残存状態が良好であった。確認されたすべてのカマドのソデは、地山が掘り

- 所在地
行田市大字須加字砂原4766-1他
- 実施期間(事業者)
令和5年4月～令和6年1月
(国土交通省関東地方整備局)
- 調査面積
2,187.80㎡
- 遺跡の種類
集落跡
- 主な遺構
飛鳥（第三面）（住居跡10・土壇3・溝跡1）
古墳（第四面）（住居跡2・土壇墓1・土壇6・溝跡1・性格不明遺構6・河川跡1）

I 令和五年度に調査をした遺跡

残されたタイプであった。

第19号住居跡の覆土は砂質土であり、洪水などによって埋没したと見られる。東辺にカマドが設けられ、煙道は先端部まで残存していた。残存状況は遺構検出面から床面まで約50cmと良好であるが、遺物量は少なかった。

古墳時代前期（第四面）

地表面から約3・3m下の暗褐色の硬質なシルト質土の地山からは竪穴住居跡2軒、土壇墓1基、土壇6基、溝跡1条、性格不明遺構6基、河川跡1箇所を検出した。地形は、調査区の東西両側が谷状に落ち込み、中央からやや西寄りにかけて自然堤防が形成されている。遺構はこの自然堤防上を主体に展開している。特に西側の谷の肩部から遺物がまとも出土した。この西側の谷近くの遺構は、河川跡によって削られていることが確認された。

第1号土壇墓は、長軸約2・5m、短軸約1・4mの規模である。底面全体に炭化物が広がり、焼骨がまともな箇所が見られた。また、中央部からピット1基が検出された。遺物は五領式土器と呼ばれる古墳時代前期の土師器の甕が4個体出土している。

また、性格不明遺構とした遺構の中には、残存状態が極めて悪く土壇墓と断定できないが第1号土壇墓と類似した遺構もあった。周囲に複数の土壇墓が展開していた可能性もある。

中世

この他、第1次調査の際に深度が深く底面まで精査できなかった第4号井戸跡の底面からは、瓶子形漆器、漆椀、陶器片、種子類が出土している。瓶子形漆器は類例に乏しく用途は不明である。時期は、陶器片や漆椀の型式から中世と見られる。

「まとめ」

令和4年度の第1次調査では、中世・近代の遺構が検出された第一面と、奈良・平安時代を中心とする遺構が検出された第二面の調査を行った。その結果、中世には畑、それ以前には奈良・平安時代の集落が営まれていたことが明らかになった。

令和5年度実施した第2次調査では、第三面で飛鳥時代の集落、第四面で古墳時代前期の集落が検出された。4世紀頃を中心とする第四面と7世紀頃を中心とする第三面の間に5世紀・6世紀に相当する古墳時代中期から後期にかけての遺構は検出されず、集落の断絶が確認された。また、古墳時代前期を遡る時期の遺構も確認されていない。

砂原遺跡では、第1次調査及び第2次調査において、4世紀から現代に至る土地の利用と自



第1号土壇墓跡 遺物出土状況（第四面）

然堤防形成の変遷を捉えることができた。

まず、古墳時代前期の4世紀頃に、竪穴住居跡や土壇墓がつくられ集落が形成された。この段階では調査区の東側と西側の両側が谷状に落ち込んでおり、南北方向に発達した自然堤防上に遺構が検出された。確認されたのは集落の一部であり、その中心部は調査区外に展開していたと見られる。その後、シルト質の埋土が約80cm堆積し、5世紀から6世紀にかけての遺跡は確認されていない。

次に集落が形成されるのは、第三面となる7世紀後半頃である。第四面で見られた調査区東西の谷状の落ち込みはいずれも埋没が進み、集落域が広がる。しかし、集落の中心部は調査区西側に展開したと見られる。第三面と第二面の間にも若干の間層が認められ、洪水による被害を受けたと想定される。しかし大きな断絶はなく、集落は継続していたと見られる。

第二面は奈良時代から平安時代前半にかけての集落である。時期は8世紀代から9世紀代にかけてである。平安時代の遺構は第一面の黒色土層の下に掘り込みが確認でき、第二面から20cmほど下に奈良時代の掘り込みが認められた。

地形はおおむね平坦で、わずかに東へ低くなっている。遺構は西端以外の調査区全域から検出された。時期ごとに若干、遺構掘り込み面の高さが異なることから、洪水の被害を受けつつも集落は廃絶せずに継続していたと見られる。

第一面は、地表下1・0～1・5m下から、黒色シルト質土の遺構検出面が見られた。地形は、北東が高く南西に向かって低くなっている。第二面以前までは傾斜が逆転している。調査区東側にかけて砂層が厚く堆積していたことか



河川跡 遺物出土状況（第四面）

ら、調査区の東側方向に自然堤防の中心部が形成されていたと見られる。遺構は北東端以外の調査区全域で確認された。中世から幕末にかけての遺構である。

第二面から第一面にかけては、断絶があり、10世紀以降の平安時代後期から13世紀から14世紀にかけての鎌倉時代から室町時代の遺構は見られない。この段階に砂の水成堆積が進んだ。この時期にはこの土地で人々の活動が行われなかったことで砂が堆積したと見られる。また、度重なる洪水によって上流部で自然堤防が発達し、河川の流路が変化したことで堆積した土砂の性質が変わったことも要因として挙げられる。

その後、近世から近代にかけて砂原遺跡に所在した砂の自然堤防は、上に祠が置かれ、洪水時には避難所として機能していた。しかし、戦後の高度経済成長期にコンクリートなどに配合する良質な砂として掘削され、その大部分が姿を消した。